

带状疱疹ワクチン（予防接種）について（50歳以上対象）



- ・带状疱疹は、生涯のうちに3人に1人がかかるといわれています。
- ・50歳代から発症率が急に上がり、60歳代、70歳代と加齢とともにさらに増加します。
- ・带状疱疹は強い痛みを伴うのが特徴で、皮疹が治った後も長期に痛みが残る合併症を带状疱疹後神経痛といい、50歳以上では带状疱疹にかかった人の2割に発症すると考えられています。
- ・带状疱疹ワクチンをすることにより、そのリスクを大幅に下げることができます。
- ・当院（皮膚・形成外科）では带状疱疹の予防接種（生ワクチン）を取り扱っています。

※他のワクチンを接種した方について

- ・他の生ワクチンを接種した場合は、27日間開ける必要があります。
- ・新型コロナワクチンの接種を考えている（接種した）場合は、片方のワクチンを受けてから2週間あければ、接種できます。



当院での带状疱疹生ワクチン接種の手順

- ① 当院で、皮膚科形成外科の予約を取っていただきます。
電話：06-4795-5505 で、“带状疱疹ワクチン希望”とお伝えください。皮膚科形成外科での外来診察の予約を承ります。
- ② 予約時間に、2階の皮膚科形成外科外来に来ていただき、ワクチン接種に必要な問診をおこないます。
外来担当医が問題ないか判断し、問題なければ2階の採血室で予防接種をいたします。
- ③ 接種に必要な費用は、全て込みで7700円（税込）です。

带状疱疹ワクチンについて

- ・ワクチンを接種することで一定の予防効果はありますが、**任意接種のため接種費用は全額自己負担**になります。
- ・带状疱疹ワクチンは、現在2つの製品（シングリックス、ビケン）があり、効果や接種対象などに違いがあります。（下図をご参照ください。）
- ・**当院での带状疱疹の予防接種は、生ワクチンのみを取り扱っています。（不活化ワクチンは取り扱っておりません。）**

	○当院で接種できます	×当院では扱っておりません
ワクチン名	水痘生ワクチン ビケン 生ワクチン＝病原性を弱めたウィルスそのもの	シングリックス（不活化ワクチン） 不活化ワクチン＝病原性を弱めたウィルスの一部分
発症予防効果	50% 約5年間	50代：90数%以上、60代：80%、70代：70% 9年以上は確実に効果がある。
带状疱疹神経痛 予防効果	60%前後	90%前後
接種方法	1回（皮下注射）	2回（筋肉内注射） （1回目から2か月後に2回目接種）

接種費用	7700 円（税込み）（当院） （接種に必要な料金は全額自己負担になります）	接種費用の目安：20,000～30,000 円（1 回あたり）
副反応	局所（注射部位）症状：紅斑、そう痒感、熱感、腫脹、疼痛、硬結 全身症状：倦怠感、発疹など ごくまれにアナフィラキシー反応、ショック※が現れることがあります。	局所（注射部位）症状：疼痛、発赤、腫脹など 全身症状：筋肉痛、疲労、頭痛など ごくまれにショック、アナフィラキシー反応が現れることがあります。
接種できない方	・明らかに発熱している（37.5°以上） ・重篤な急性疾患にかかっている方 ・過去にこのワクチンの成分でアレルギーを起こした方 ・透析中の方 ・副腎皮質ステロイド薬・免疫抑制薬、抗リウマチ薬、抗がん剤などで、免疫機能が低下している方	・明らかに発熱している（37.5°以上） ・重篤な急性疾患にかかっている方 ・過去にこのワクチンの成分でアレルギーを起こした方

※ アレルギーの症状は、皮膚、粘膜、呼吸器、消化器、神経、循環器など多彩であり、複数臓器において症状がみられるものをアナフィラキシーといい、循環器系のショック症状(血圧低下や不整脈、蒼白)を伴うものをアナフィラキシーショックといいます。

带状疱疹（たいじょうほうしん）とは

- ・带状疱疹は水ぶくれを伴う赤い発疹が体の左右どちらかに、帯状に出る皮膚の疾患です。強い痛みを伴うことが多く、症状は 3～4 週間続きます。
- ・子どもの頃にかかった水痘（みずぼうそう）ウイルスは、病気が治った後も体の中でから除去されず、神経の中に長期間潜んでいます。高齢になったり、ストレスがかかったり、病気などにより、免疫が低下した際には、その潜んでいたウイルスが増殖・活性化して、上記の症状を起こし、「带状疱疹」として発症します。
- ・周囲の人に带状疱疹としてうつることはありませんが、これまで水痘にかかったことがない（水痘の予防接種をまだ受けていない）小児等には水痘を発症させる可能性があります。
- ・日本では、80 歳までに約 3 人に 1 人がかかるといわれています。
- ・带状疱疹の合併症として問題となるのは、带状疱疹後神経痛（Postherpetic Neuralgia：PHN）です。

带状疱疹後神経痛（たいじょうほうしんごしんけいとう）とは

- ・带状疱疹は神経の炎症を起こすため、神経の傷跡が原因で、皮膚症状が治った後も非常に強い痛みが長い間続くことがあり、带状疱疹後神経痛（Postherpetic Neuralgia：PHN）といいます。

※带状疱疹後神経痛の定義：日本ペインクリニック学会によるペインクリニック治療指針では、带状疱疹発症後 90 日以上経過しても痛みが続く場合をいい、想像できる最大の痛みを 10 として、その 4 以上の強い痛みとされています。）

- ・50 歳以上で带状疱疹にかかると、5 人に 1 人に带状疱疹後神経痛（PHN）を合併しました。

带状疱疹の予防

- ・「加齢」「疲労」「ストレス」「病気」などで免疫の働きが低下することが、带状疱疹の発症の引き金になっています。
- ・食事のバランスや睡眠など基本的な生活習慣を整えることが予防につながります。
- ・発疹が現れてから 3 日以内に治療を開始することが重要です。早く治療を始めれば、重症化が防げます。